

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（19）



～ 「やればできる。」 ～

石垣市教育委員会 教育部長 天久朝市

大谷翔平選手(エンゼルス)の活躍に心躍る日々が続いています。こんな気持ちにさせる大谷選手の魅力とは何でしょうか？

その凝縮したプレイが、先日7月3日オリオールズ戦のサヨナラ勝ちした9回裏にありました。

まず、大谷選手は四球で塁に出ます。その後、二度も盗塁を試み成功、直後、次の打者のヒットで本塁に突入します。間一髪のタイミングでしたが、見事セーフで、サヨナラ勝ちとなりました。

試合後の取材で、「自分が盗塁すれば1本のヒットで生還できる。勝利の確率が高くなる。」と発言したようです。

大谷選手は、勝利のため、冷静に考え全力で駆け抜けました。ホームイン後の寝たままのガッツポーズ、そして抱き起こしてくれたチームメイト、全員が笑顔でした。

大谷選手のホームランは、力強く綺麗なアーチを描きます。しかし、これは彼の野球に占める一部分であって、その本質は、目的を達成するため、懸命に考え常に全力を尽くす姿勢にあると感じました。

子ども達には、誰でも大谷選手のようになれると言いたいところですが、そう簡単ではありません。しかし、大谷選手のように、物事をよく考え全力を尽くすことは、誰でも可能だと言えます。

当然、成功ばかりでなく、むしろ失敗のほうが多いでしょう。しかし、子ども達には時間があります。チャレンジする時間、失敗してもやり直す時間、そして再びチャレンジする時間です。

成功することだけに価値を見出すのではなく、チャレンジし続けることに価値を見出してあげたい、そして、頑張る子ども達の姿を、全力で応援したいものです。

野球つながりで、もう一つ。

「やればできる。」、最近、お笑いコンビ「ティモンディ」の高岸さんがよく言う言葉です。

彼は、これを大きなジェスチャーで真剣に語りかけます。不思議に、彼が言うとなぜか素直に受け入れられ、前向きな気持ちになります。

実は、彼らは高校野球出身で、愛媛県の強豪「済美高校」で甲子園を目指す球児でした。

この「やればできる。」は、彼らの恩師の上甲（じょうこう）監督の教えでもあり、野球部のスローガンでもあったようです。

彼らは、この言葉のもと、3年間懸命に頑張ってきたのでしょう。残念ながら、彼らの時代に甲子園出場は叶いませんでしたが、この「やればできる。」の気持ちで、彼らは今、野

球とは違う「お笑い」の世界で大活躍しています。

そして、お笑いの世界に入ってから、この言葉を発信することで、多くの人に笑いと一緒に「勇気」を届けています。

幼い頃、誰もが好奇心旺盛で、何にでも関心を持ちます。しかし、成長とともに恥ずかしさや恐怖心などから、踏み出すことを躊躇する時期が訪れます。

一歩踏み出したいけど、なかなか踏み出せない。何かきっかけが必要です。

ありきたりな言葉ですが、「やればできる。」には、その勇気を与える力を感じるのです。声にすると、いい意味での自己暗示にもなります。

何かに迷っているとき、「やればできる。」の肯定の言葉で、子ども達は自らを励まし、周りの大人達は、子ども達を勇気づけ、その成長を後押ししてはいかがでしょうか。